

## 第一歌 テレマコス、父の消息を求める旅を決意する

流浪のオデュッセウスを故郷イタケに帰国させることが神々の集会で決まった。アテナが賢者メンテスに扮してオデュッセウスの屋敷を訪ねると、彼の妻ペネロペへの求婚者たちが宴会に興じて屋敷の財産を食いつぶしていた。アテナはテレマコスに、集会を開催して求婚者の悪行を訴えることと、父の消息を尋ねて旅することを勧めた。テレマコスは求婚者たちに、明朝集会を開催して彼らを糾弾することを宣言した。

## 内容

神々の集会が開かれ、オデュッセウスの帰国が決まる さて、オデュッセウスは帰郷を望んでいたが、彼を愛する女神カリュプソの洞窟に引き止められていた。ある時、ポセイドンが留守の間に、神々はゼウスの屋敷で集会を開いた。ゼウスは、「人間どもは非道な行いによって自ら苦難を招くものだ。このたび、アイギストスがアガメムノンを殺したように」といった。アテナは、「父君よ、オデュッセウスはその男とは違います。望郷の念に苦しむ彼を憐れと思いませんか」といった。ゼウスは、「娘よ、ポセイドンが盲目にされたキュクロプスのことで彼に腹を立てているのだ。彼を国許へ帰らせる良い手段はないものか」と答えた。アテナは言った。「ではヘルメスをオギュギエへ遣わし、オデュッセウスを帰国させるよう、かのニンフに伝えましょう。私はこれからイタカへ出向き彼の息子を励ましてやり、父親の消息を求めて、スパルタとピュロスへ行かせるつもりです」

アテナ、オデュッセウスの屋敷を訪れる アテナはタポス王メンテスの姿に変身し、イタカのオデュッセウスの屋敷を訪れた。屋敷の前では、驕慢な求婚者たちが肉を喰らい遊びに興じていた。テレマコスは門前の客に気づいて、すぐに屋敷の中に案内した。彼は客に食事と酒を与えて、その素性をたずねた。アテナは、「私はメンテスと申す者で、タポス人を治めています。青銅を求めて船でテメセ(\*1)に向かっています。お父上とは先祖代々から懇意の間柄です。ところで、ここで傍若無人に飲食している連中は一体何者なのです」といった。テレマコスは言った。「トロイアに赴いた父が行方不明になってしまうと、付近の島の領主たちが母の求婚に押し寄せて来て、我らの家財を食いつぶし始めたのです。母は嫌な結婚を拒みもせず、受けもしません。やがて彼らは財産を食い尽し、私を八つ裂きにするでしょう」

アテナ、テレマコスに助言をする アテナは憤然としていった。「なんということだ。あなたのお父上さえおられればなあ。ともあれ、今は求婚者を追い払うことが先決でしょう。私の言うことを良くききなさい。明日アカイア人の集会を開き、そこで求婚者たちに各自の所領に引き上げるよう求めなさい。それから、あなたは船を出して、お父上の消息を尋ねに出かけるのです。まずピュロスへ行きネストルを、次にスパルタへ行きメネラオスを訪ねなさい。お父上が存命と分かれば、あと一年は辛抱できるでしょう。その後は、求婚者どもを討ち果たす手立てを考えるのです。あなたはもう一人前だ、勇気をお出しなさい。では、私はもう船へ帰ります」アテナはその場を去ったが、テレマコスの胸に勇気を打ち込んだ。

テレマコス、ペネロペをさとす その時、楽人ペミオスが求婚者のためにトロイアからの帰国物語を歌っていた。階上でペネロペはその歌を耳にすると、部屋から二人の侍女を随えて出てきて、広間に降りてくると、

「ペミオスよ、その歌だけはやめておくれ。それを聞くと立派なあの人のことが思い出されて悲しい」

といった。[テレマコス](#)は母に向かっていった。

「母上、楽人が人を楽しませているのに何がご不満ですか。聴く者に一番耳新しく響く歌こそ、最も世の喝采を博するのです。母上も気持ちをしっかりと持ち、辛抱してお聞きにならねばなりません。さあ、今は部屋に戻ってください」

妃はあっけにとられた心持ちで自分の部屋に戻ると、しばらく夫を想って泣いていたが、やがて眠りについた。



([画像/求婚者に歌うペミオス](#))

**テレマコス、求婚者に立ち向かう** [テレマコス](#)は求婚者らに向かって、

「一同よ、明日の朝、私は集会を広場で催し、そなたらにこの屋敷から退散するよう、きっぱりと申し渡すつもりだ。これからは、この屋敷での宴会も禁ずる。従わないなら、この屋敷で死んでもらうことになるだろう」

と言った。全員[テレマコス](#)の大胆な発言に肝をつぶした。[アンティノオス](#)は、

「なんという大胆で思い上がった発言だ。[ゼウス](#)がそなたを[イタカ](#)の領主になさらぬように祈るぞ」

といった。[テレマコス](#)はそれに答えて、

「[イタカ](#)の領主には、豪族たちの誰かがその地位につくのだろう。しかし、この屋敷はずっと私のものだ」

といった。すると[エウリュマコス](#)がいった。

「そなたの財産を奪うような男が出ねばよいがな。ところで、先ほどの客人は何者なのか」

[テレマコス](#)は答えた。

「あの客人は[タポス](#)王で、[メンテス](#)と名のっていた」

**テレマコス、就寝する** それから求婚者たちは夕暮れまで宴に興じた後、各自家路についた。[テレマコス](#)が寝室に向かうと、老女[エウリュクレイア](#)が松明で足元を照らした。この老女は数ある侍女の中でも、[テレマコス](#)を最もいとおしんでおり、幼い頃の彼を養育したのもこの女だった。[テレマコス](#)は寝台に横たわって、夜もすがら、[アテナ](#)のいった旅のことを思いめぐらしていた。

## 関連

### 人名

<a href="#">ムーサ</a>	詩、文芸の神
<a href="#">ヘリオス</a>	太陽の神
<a href="#">ゼウス</a>	主神。クロノスの子。オデュッセウスを帰国させることを決める
<a href="#">カリュブソ</a>	アトラスの娘。オデュッセウスを夫にと望んでいる女神
<a href="#">ポセイドン</a>	キュクロプスの目を潰したオデュッセウスに腹を立てている
<a href="#">アガ멤ノン</a>	トロイア戦争でのギリシャ勢の大將
<a href="#">オレステス</a>	アガ멤ノンの息子。父の仇アイギストスを殺害する
<a href="#">アイギストス</a>	アガ멤ノンを謀殺する
<a href="#">ヘルメス</a>	ゼウスの命により、カリュブソの許へ遣わされる

<a href="#">アテナ</a>	<a href="#">オデュッセウス</a> に同情的。 <a href="#">イタカ</a> へ行き <a href="#">テレマコス</a> を励ます
<a href="#">オデュッセウス</a>	<a href="#">イタカ</a> の王。 <a href="#">ラエルテス</a> の子。 <a href="#">トロイア戦争</a> の英雄。今は放浪の身
<a href="#">ポリュペモス</a>	<a href="#">ポセイドン</a> の子。 <a href="#">オデュッセウス</a> に盲目にされた <a href="#">キュクロプス</a>
<a href="#">ポルクユス</a>	<a href="#">トオサ</a> の父。「海の翁」と呼ばれる海神
<a href="#">トオサ</a>	ニンフ。 <a href="#">ポセイドン</a> と交わって <a href="#">ポリュペモス</a> を生んだ
<a href="#">アルゴス</a>	百の目をもつ怪物。「アルゴス殺し」は <a href="#">ヘルメス</a> の枕詞
<a href="#">テレマコス</a>	<a href="#">オデュッセウス</a> の息子
<a href="#">ペネロペ</a>	<a href="#">オデュッセウス</a> の妻。 <a href="#">イカリオス</a> の娘
<a href="#">メンテス</a>	<a href="#">タポス</a> の王。アンキアロスの子。 <a href="#">アテナ</a> が人間に扮するのに姿を借りた
<a href="#">イロス</a>	<a href="#">メルメロス</a> の子。 <a href="#">オデュッセウス</a> が毒を求めて訪れた人物
<a href="#">アンティノオス</a>	求婚者のリーダー格。エウペイテスの子
<a href="#">エウリュマコス</a>	求婚者のリーダー格。エウリュマコスの子
<a href="#">ペミオス</a>	楽人。宴でアカイア勢の <a href="#">トロイア</a> からの帰国の物語を歌う
<a href="#">エウリュクレイア</a>	屋敷の侍女。ペイセノルの子オプスの娘。 <a href="#">テレマコス</a> を養育した乳母

## 地名

<a href="#">イタケ</a>	<a href="#">オデュッセウス</a> の故郷
<a href="#">オギュギア</a>	<a href="#">カリュプソ</a> の住む島
<a href="#">オリュンポス</a>	神々の住みか
<a href="#">トロイア</a>	西アジアの都市。 <a href="#">トロイア戦争</a> の舞台
<a href="#">ピュロス</a>	<a href="#">ネストル</a> 王の領地
<a href="#">スパルタ</a>	<a href="#">メネラオス</a> 王の領地
<a href="#">タポス</a>	ギリシャ北西の島。 <a href="#">メンテス</a> 王の領地
テメセ	南イタリアの都市
ドゥリキオン	<a href="#">イタカ</a> 近辺の島
サメ	<a href="#">イタカ</a> 近辺の島
ザキュントス	<a href="#">イタカ</a> 近辺の島
エピュレ	<a href="#">オデュッセウス</a> が毒を求めて訪れた <a href="#">イロス</a> のいた町

[オデュッセイア](#) ... [次へ](#)